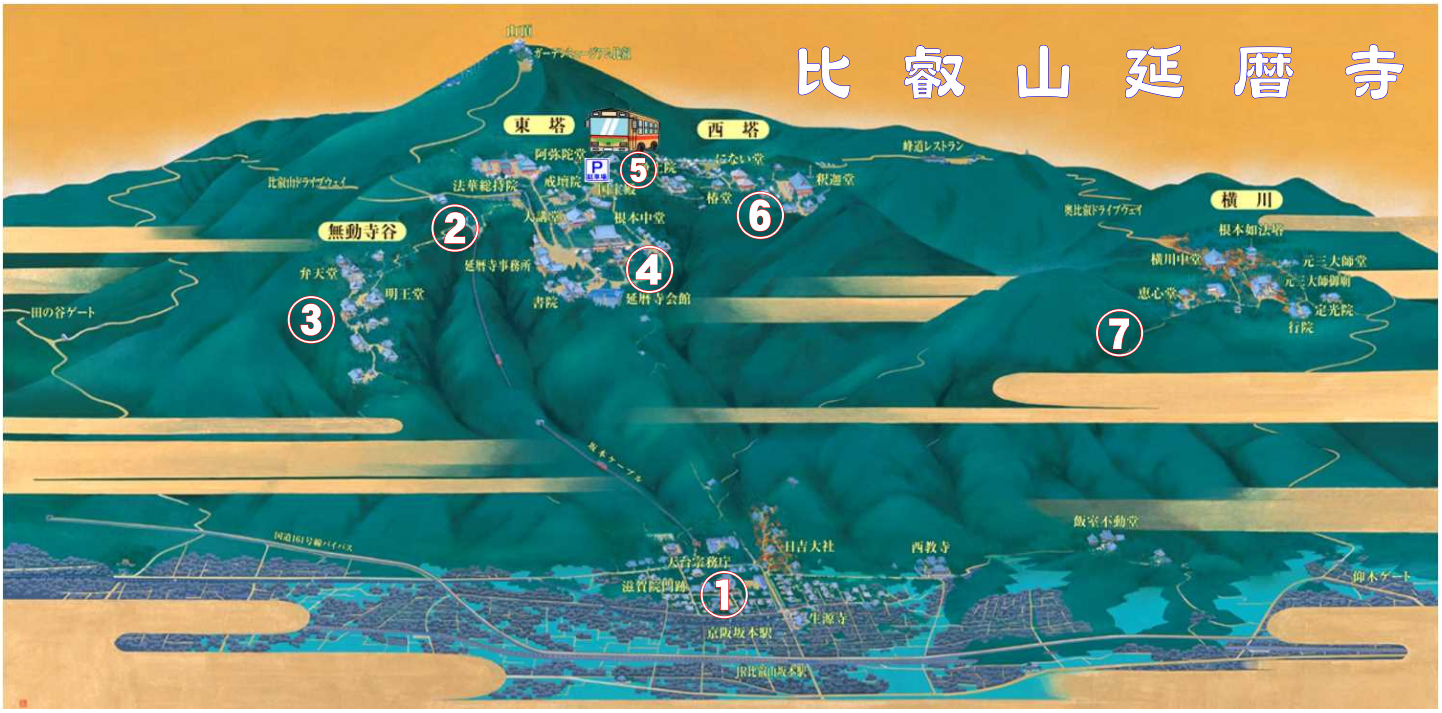
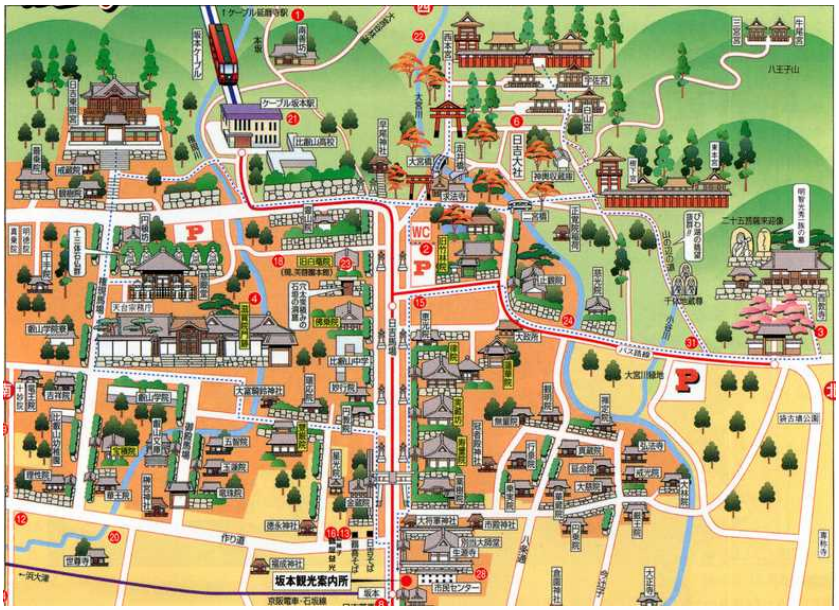
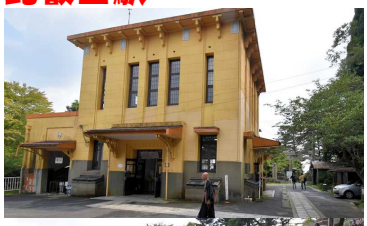


①坂本　天台宗里坊と宗務機関



坂本は比叡山延暦寺の台所を預かる門前町です。その中心は延暦寺の総本坊で天台座主の御座所「滋賀院門跡」で、その横に天台宗務所もあり、関係学校も点在しています。
日吉馬場と呼ばれる灯籠の参道脇には、延暦寺の里坊寺院が並んでいる。横川の総里坊であった律院（阿闍梨餅発祥の寺）、生源寺（伝教大師生誕の地）など80ヵ所以上あります。
延暦寺は、三塔十六谷と呼ばれるように、大きくは東塔・西塔・横川の三塔に区分され、その中に谷と呼ばれる十六のエリアが存在します。この谷の中に院や坊の堂舎があり、これが山上の坊、つまり「山坊」と呼ばれました。僧侶たちが仏道修行する場が、こうした山坊になります。これに対して里に存在する坊が里坊です。「山坊」がまずあり、対となって山麓に「里坊」が造られることになります。ただ、山坊が廃れ、里坊のみが残る例も多く見られます。
「**里坊**」とは一般に延暦寺の僧侶が里に設けた院や坊のことを指しますが、その機能は歴史とともに変化していったようです。往時の比叡山の修行は「論湿寒貧」といわれたように、厳しい自然との闘いでもありました。
その厳しさに堪えられなくなった老僧や病弱の僧が隠居保養するため、天台座主から賜ったのが里坊だと言われています。

比叡山駅



里坊から山坊へは昭和2年開業のケーブルカーを利用、坂本ケーブルは全長2025m。日本一長いケーブルカーです。ケーブル延暦寺駅や車内からのびわ湖の眺めは、大パノラマで、大正ロマンを語る魅力たっぷりの駅舎、ヨーロピアン調の車両で11分間で到着します。

ここで、駅舎裏手の無動寺参道の鳥居をくぐり**大乗院参拝健脚組**と**東塔巡り組**に分かれます。

大乗院までは往復1.8km(高低差130m)行きは良い良い、帰りは辛い参詣となります。

大乗院をスルーされる方は、東塔の各堂宇ご参拝下さい。国宝殿(宝物館)500円有料、各自ご精算下さい。

③無動寺谷大乗院

無動寺谷は比叡山回峰行の拠点で有り、現在も千日回峰行堂入りの明王堂には行者が修行し、途中の閼伽井の湧き水もあります。

明王堂下の護摩堂は千日回峰行最後の仕上げ護摩を焚くお堂内も見られます。

大乗院は慈円慈鎮和尚の修行場でも有りこの近くに墓所もあり、慈鎮和尚に付いて親鸞聖人がここで若き日修行された感動の地であります。

親鸞聖人はこの大乗院で修行されたといわれ、ソバ食いの木像が安置されています。

蕎麦食いの木像

親鸞聖人29才、六角堂へ百日間の参籠で夜な夜な山を下りる範宴(修業時代の名前)の行動を、同僚の僧達は、京の女性のもとへ通っているに違いないと噂をしていた。

範宴が比叡山を留守にしているとき、延暦寺の高僧はその噂を確かめるため修行僧を集め、蕎麦を振る舞った。その際、自分の姿を彫った木像が、修行僧らと一緒に蕎麦を食べ、その誤解を晴らしたという伝説の木像が堂内のご本尊となっています。

※大乗院では全員で讃仏偈のお勤めをします

④東塔　延暦寺会館

２階お食事処《 望湖 》にて昼食、琵琶湖を俯瞰する景色の良い食堂です。

食事は精進会席、無動寺谷踏破記念にビール4名に1本用意してあります。

⑤バス駐車場

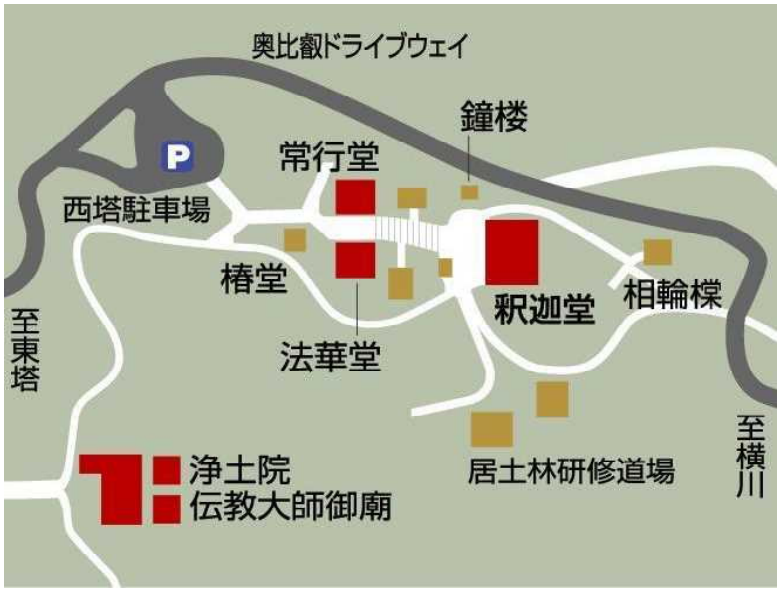
1:20集合予定

昼食の後は東塔自由参観、第1駐車場バスセンターには**売店**も有り、お土産を買うことも出来ます。
お手洗いをすませ集合して下さい。

⑥西塔　担い堂(常行三昧堂)釈迦堂

常行堂・法華堂(にない堂)

同じ形をしたお堂が廊下によって繋がっています。正面向かって左が、常行三昧(親鸞聖人もされたであろう)を修す阿弥陀如来を本尊とする常行堂、右が法華三昧を修す普賢菩薩を本尊とする法華堂です。弁慶が両堂をつなぐ廊下に肩を入れて担ったとの言い伝えから、にない堂とも呼ばれています。



釈迦堂　(転法輪堂)

西塔の本堂にあたるのが、この御堂で本尊の釈迦如来にちなみ、釈迦堂の名で知られています。現在の釈迦堂は、延暦寺に現存する建築中最古のもので、もとは三井寺の園城寺の金堂でしたが、秀吉が文禄４年(1595年)に西塔に移築したものとなります。

※釈迦堂では回峰行の祖・相応和尚一千百年御遠忌にあたり、33年ぶりに秘仏の釈迦如来像がご開帳されており参拝します。

浄土院

伝教大師最澄の御廟がある浄土院は、弘仁13年(822年)6月4日、56歳で入寂された大師の遺骸を安置した、本願寺の大谷本廟の様な所です。延暦寺にとってとては大切な場所で、１２年籠山の僧(侍真)が毎日、生身の大師に仕えるごとくに奉仕しています

浄土院奥、伝教大師の御廟

⑦横川　源信僧都

横川は本堂にあたる横川中堂（首楞厳院）を中心とする区域です。
西塔から北へ４キロメートルほどのところにあり、第３世天台座主慈覚大師円仁によって開かれました。本堂は、遣唐使船をモデルとした舞台造りの横川中堂です。おみくじ・魔除けの角大師で有名な元三慈恵大師良源（18代座主、叡山中興）を祀っている四季講堂（元三大師堂）などがあります。
御俗姓で「楞厳横川の末流をつたへ」と、親鸞聖人はここで29歳まで勉学修行されたと言われている場所であります。

源信和尚（942～1017）恵心僧都とも呼ばれる。
奈良葛城當麻村に生まれ、幼名を千菊丸といい、九歳のころ、近くの小川で鉢を洗う旅の僧を見て、次の問答をしたという。
「お坊さま、むこうの川の方がきれいですよ。」
「すべてのものは浄穢不二じゃ。きれい、きたないは凡夫の心の迷いじゃ。このままでよい、よい。」
「それじゃ、どうして鉢を洗うの」と1本取りました。この旅の僧のすすめで利発な千菊丸の出家の話が決まり、比叡山に登り良源僧正について勉学、十三歳にして髪をおろし出家となり、師から源信の名が与えられた。
源信の才智はまわりの者の目を見張らせ、十五歳にして時の帝・村上天皇の御前で特別に『称讃浄土経』を講じる名誉を得た。天皇はじめ公卿殿上人、感嘆しない者はなく、数々の褒美の品と、僧都の位とが授けられた。源信は、早速この喜びを大和にひとり暮す母に知らせようと、使いの者に褒美の品を持たせた。
しかし、褒美の品は返されてき、和歌が添えてあった。
「後の世を渡す橋とぞ思ひしに　世渡る僧となるぞ悲しき　まことの求道者となり給へ」
母の厳しい訓誡をうたれた源信和尚は、叡山横川の恵心院に住んで念仏三昧の日を送り、浄土念仏の思想基盤となる『往生要集』全三巻を書かれ、浄土真宗七高僧の六祖としてお慕いされている。
寛仁元年6月10日、仏手の縷を自らの手にとり十二礼一節『面善円浄如満月』お勤めし入滅されました。

『往生要集』写本（延暦寺蔵）

親鸞聖人は高僧和讃で称えられている一首をお墓で歌います♪♪

本師源信ねんごろに　一代仏教のそのなかに　念仏一門ひらきてぞ　濁世末代をしへける
煩悩にまなこさへられて　摂取の光明みざれども　大悲ものうきことなくて　つねにわが身をてらすなり

平成29年10月2日中川北組研修旅行資料、文責：組長杉山雲来